

大学入学者選抜改革の動向

文部科学省高等教育局
大学振興課大学入試室

「高大接続改革」の必要性

- 国際化、情報化の急速な進展

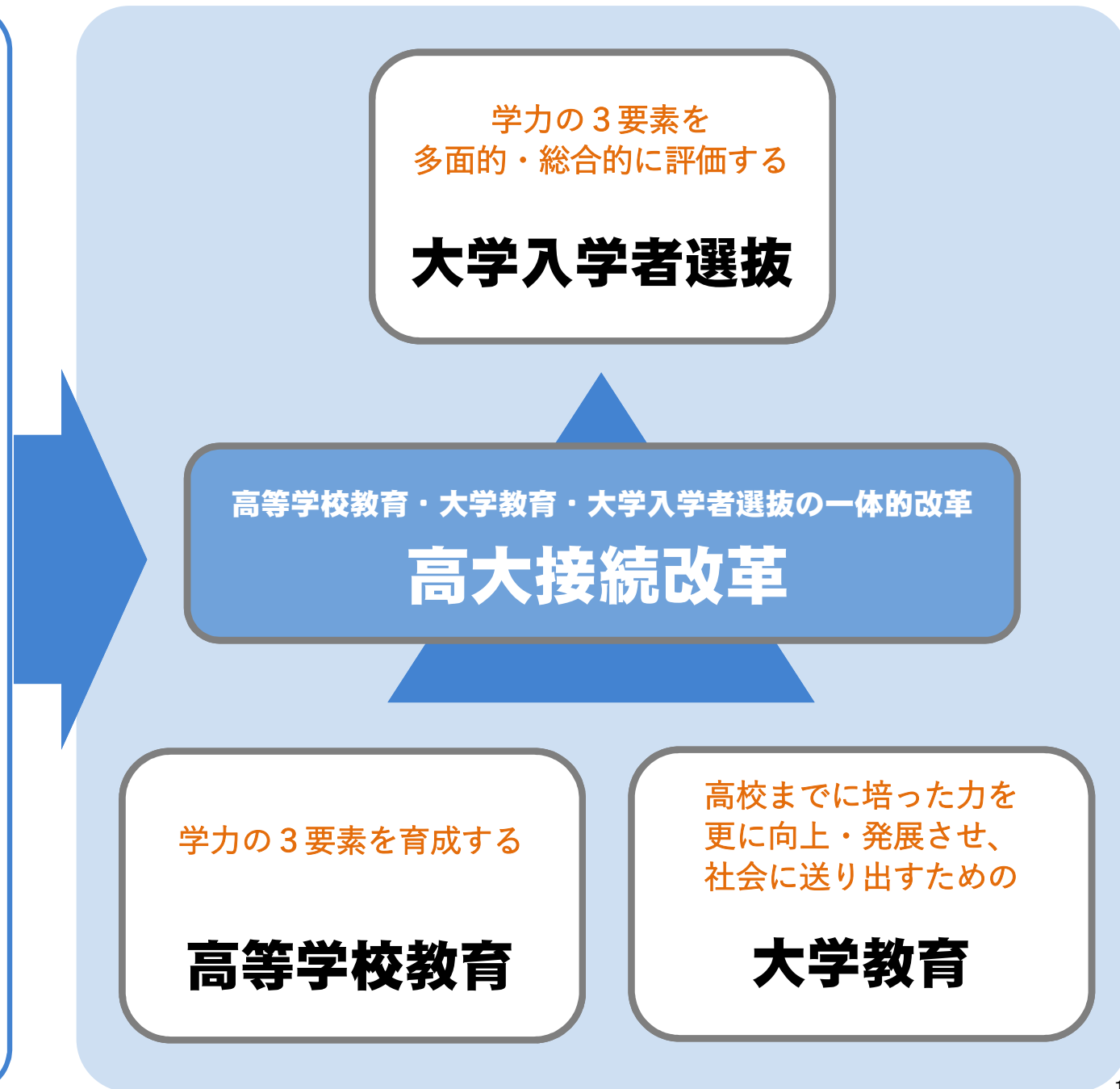


社会構造も急速に、かつ大きく変革。

- 知識基盤社会のなかで、新たな価値を創造していく力を育てることが必要。
- 社会で自立的に活動していくために必要な「学力の3要素」をバランスよく育むことが必要。

【学力の3要素】

- ① 知識・技能の確実な習得
- ② (①を基にした)
思考力、判断力、表現力
- ③ 主体性を持って多様な人々と
協働して学ぶ態度



高大接続改革の議論・検討の流れ

中央教育審議会へ諮問「大学入学者選抜の改善をはじめとする高等学校教育と大学教育の円滑な接続と連携の強化のための方策について」(2012年8月28日)

○ 文部科学大臣から中央教育審議会に対し諮問が行われ、中央教育審議会では総会直属の高大接続特別部会を設置。同年9月から審議を開始。

教育再生実行会議「高等学校教育と大学教育との接続・大学入学者選抜の在り方について(第四次提言)」(2013年10月31日)

○ 高等学校教育の質の確保・向上、大学の人材育成機能の抜本的強化、能力・意欲・適性を多面的・総合的に評価しうる大学入学者選抜制度への転換について提言。

中央教育審議会「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について(答申)」(2014年12月22日)

○ 今回の答申は、教育改革最大の課題でありながら実現が困難であった「高大接続」改革をはじめて現実のものとするための方策として、「高等学校教育」「大学教育」及び両者を接続する「大学入学者選抜」の抜本的改革を提言するもの。

「高大接続改革実行プラン」(2015年1月16日)文部科学大臣決定

○ 高大接続答申を踏まえ、高大接続改革を着実に実行する観点から、文部科学省として今後取り組むべき重点施策とスケジュールを示したもの。2015年1月に文部科学大臣決定として公表。

「高大接続システム改革会議」(2015年3月～2016年3月)

○ 高大接続答申・高大接続改革実行プランに基づき、高大接続改革の実現に向けた具体的な方策について検討。2016年3月に最終報告。
※自由民主党文部科学部会「高大接続改革に関する小委員会」(2015年3月～2016年3月)においても、議論。

文部科学省内に検討・準備グループ等を設置(2016年4月～)

○ 高大接続システム改革会議「最終報告」を踏まえ、検討・準備グループ等を設置し、具体的制度設計を検討。

高大接続改革の進捗状況を公表(2016年8月、2017年5月)

○ 各々の検討・準備グループ等の検討状況を2016年8月及び2017年5月に公表。

高大接続改革の実施方針等の策定(2017年7月13日)

○ 高等学校・大学等の関係団体等からの意見を踏まえ、検討・準備グループ等で検討を行い実施方針等について策定
・「高校生のための学びの基礎診断」：文部科学省において一定の要件を示し、民間の試験等を認定するスキームを創設
・「大学入学共通テスト」(2020年度～)：記述式問題導入、英語の4技能評価のための民間等資格・検定試験の活用 等
・選抜に関する新たなルールの設定：AO入試及び推薦入試の評価方法、出願及び合格発表時期 等

高等学校教育改革

《「学力の3要素」の確実な育成》

✓教育課程の見直し

- 2016年12月答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策について」
- 高等学校学習指導要領を改訂（育成すべき資質・能力を踏まえた教科・科目等の見直し）（2018年3月）

✓学習・指導方法の改善と教師の指導力の向上

- 高等学校学習指導要領を改訂（「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」の視点からの授業改善の推進）（2018（平成30）年3月）
- 2015（平成27）年12月答申「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について」
- 「教育公務員特例法等の一部を改正する法律案」（教育公務員特例法、教育職員免許法、教員研修センター法の一括改正）が成立（2016（平成28）年11月）

✓多面的な評価の推進

- 「高校生のための学びの基礎診断」の認定基準を策定し、この基準により測定ツールを認定・公表（2018年12月）
- 「キャリア・パスポート（仮称）」の調査研究を実施（2017年度から）
- 高校学習指導要領の改訂を踏まえ、指導要録参考様式を見直す予定（2018年度以降）
- 「検定事業者による自己評価・情報公開・第三者評価ガイドライン」を策定（2017年10月）

大学教育改革

《「学力の3要素」の更なる伸長》

✓「三つの方針※」に基づく大学教育の質的転換

- 「三つの方針」の一体的な策定・公表の制度化（2017年4月施行）
- 「三つの方針」策定・運用に関するガイドラインを国が作成・配布

✓認証評価制度の改善

- 「三つの方針」等を共通評価項目とし、2018年度から認証評価に反映

※「三つの方針」とは、卒業認定・学位授与の方針、教育課程の編成・実施の方針、入学者受入れの方針を指します。

大学入学者選抜改革

《「学力の3要素」の多面的・総合的評価》

✓「大学入学共通テスト」の導入

- ◎ 思考力・判断力・表現力の一層の重視
- 「大学入学共通テスト」の実施方針を決定（2017年7月）
 - ▶【国語】【数学】…記述式問題を導入
 - ▶【英語】…4技能（読む・聞く・話す・書く）評価（民間の資格・検定試験を活用）
※追加方針で受験時期・回数の例外的取扱い規定を決定（2018年8月）
- 試行調査（プレテスト）の実施（2017年11月、2018年2月、2018年11月）
- 大学入学共通テストの枠組みで活用する英語資格・検定試験について大学入試センターが公表（2018年3月）

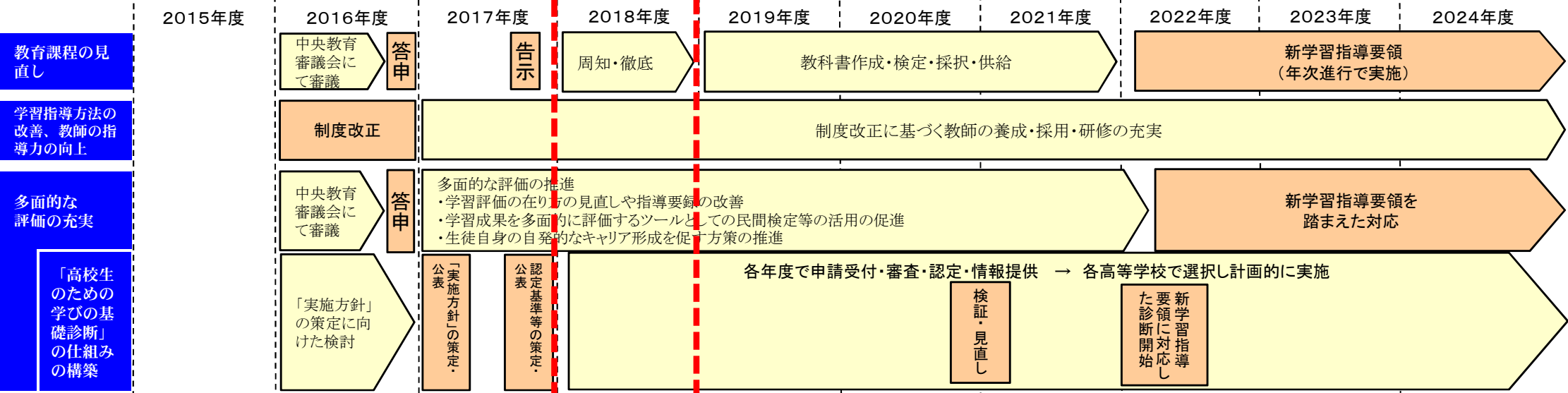
✓個別入学者選抜の改革

- ◎ 明確な「入学者受入れの方針」に基づき、「学力の3要素」を多面的・総合的に評価する選抜へ改善
- 新たな評価方法の開発・普及（2016（平成28）年度から）
 - ▶大学入学者選抜改革推進委託事業
- 「平成33年度大学入学者選抜実施要項の見直しに係る予告」を決定（2017年7月）
 - ▶入学者選抜に関する新たなルールの設定
 - ▶調査書・提出書類の改善
- 調査書の電子化の在り方については検討中

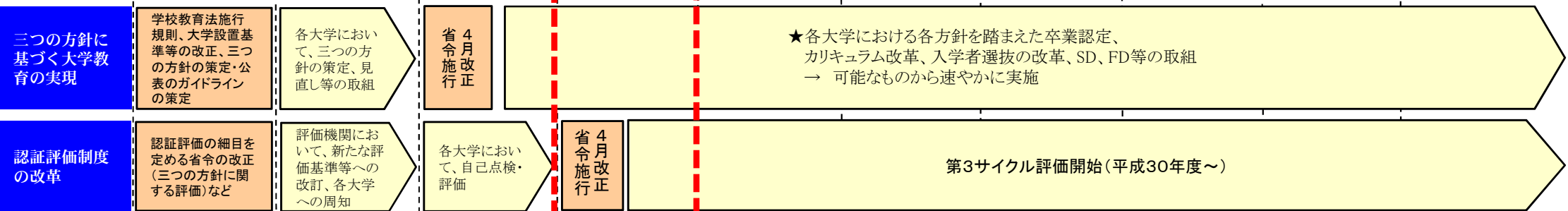
高大接続システム改革のスケジュール

2019年1月時点

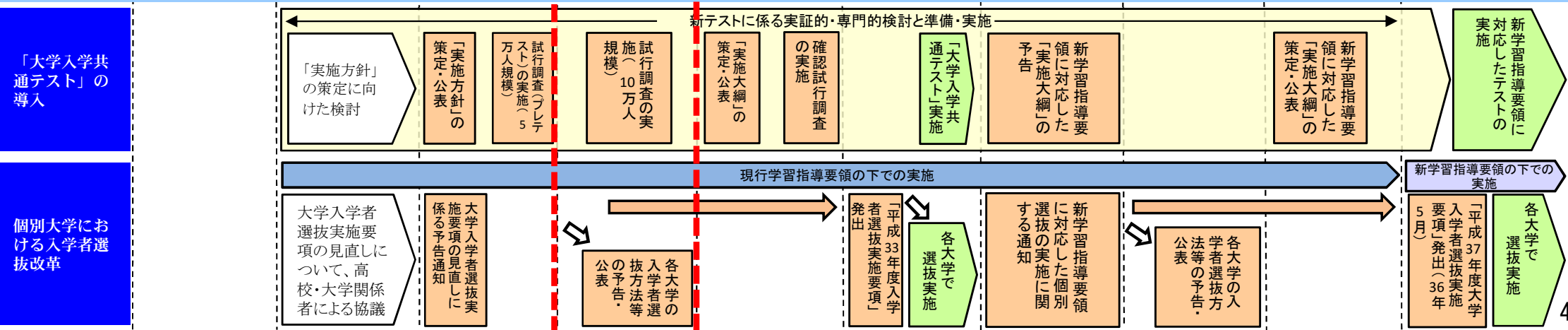
【具体的方策】1. 高等学校教育改革



【具体的方策】2. 大学教育改革

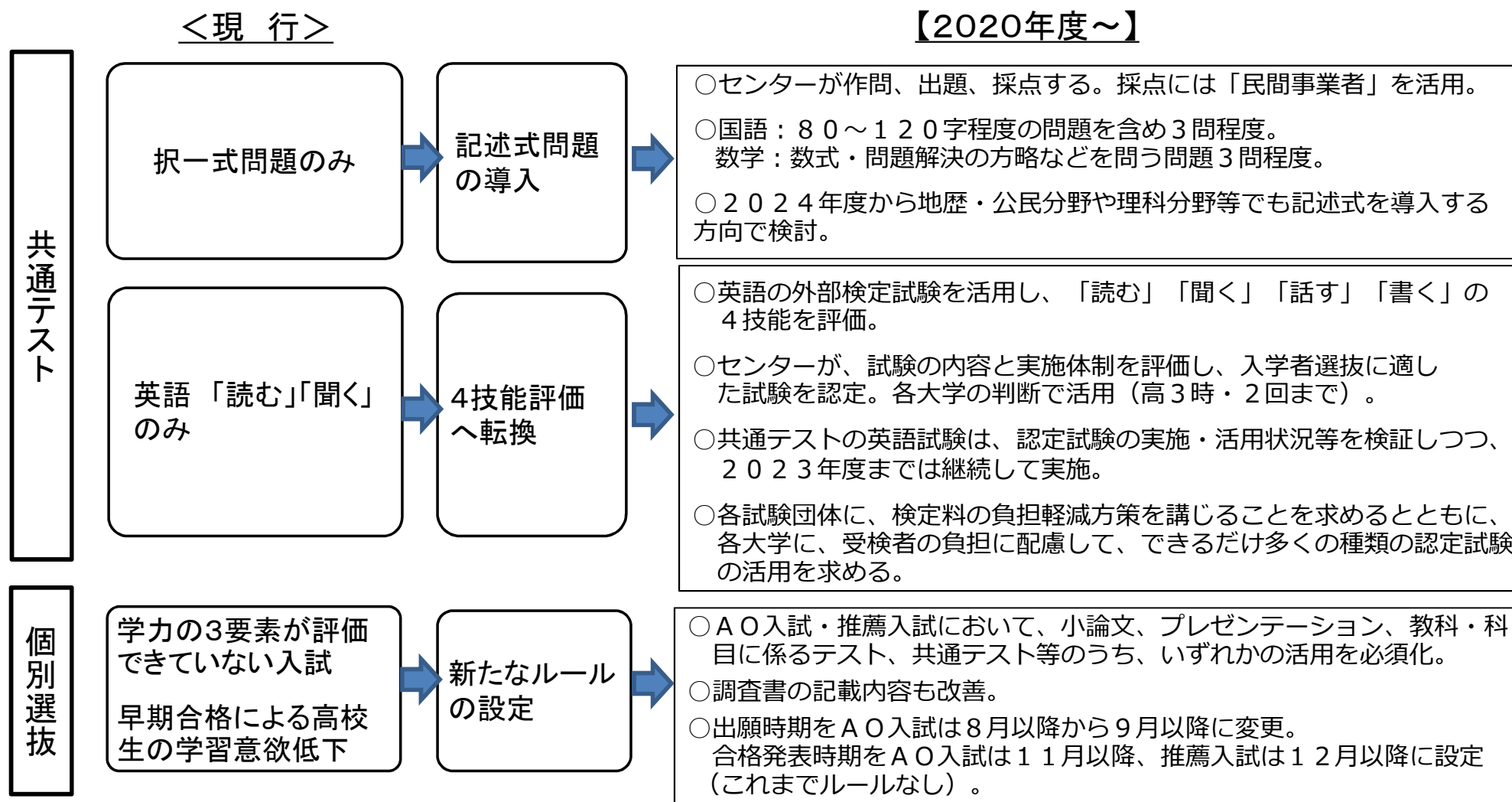


【具体的方策】3. 大学入学者選抜改革



大学入学者選抜改革

- ◆ 受検生の「学力の3要素」について、多面的・総合的に評価する入試に転換
 - ① 知識・技能 ② 思考力・判断力・表現力 ③ 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度
- ◆ 高大接続改革実行プラン、高大接続システム改革会議最終報告に沿って、大学入学者選抜の改革を着実に推進
- ◆ 2020年度「大学入学共通テスト」開始 ※記述式、英語4技能
2024年度 新学習指導要領を前提に更に改革



「大学入学共通テスト」にかかる今後のスケジュール

2016年度
(H28)

2017年度
(H29)

2018年度
(H30)

2019年度
(H31)

2020年度
(H32)

2021年度
(H33)

2022年度
(H34)

2023年度
(H35)

2024年度
(H36)

「大学入学共通テスト」の導入

「実施方針」の策定・公表
(29年7月)

試行調査の実施
(29年度)

試行調査の実施
(30年度)

「実施大綱」の策定・公表
(31年度初頭目途)

確認試行調査の実施
(31年度目途)

「大学入学共通テスト」の実施

新学習指導要領に対応した
「実施大綱」の予告

新学習指導要領に対応した
「実施大綱」の策定・公表

新学習指導要領に対応した
テストの実施

試行調査等

フィジビリティ検証事業

試行調査

試行調査

確認試行調査

受検者数

約1千人

5万人規模

10万人規模

対象者

大学1年生

原則、高校2年生以上
(一部、高校3年生以上を含む)

原則、高校2年生以上
(一部、高校3年生以上を含む)

2017、2018(平成29、30)年度の
結果を踏まえつつ、実施も含め、
詳細について、今後検討予定

対象教科等

国語、数学

国語、数学、
地歴・公民、
理科、英語、
特別の配慮等

国語、数学、
地歴・公民、
理科、英語、
特別の配慮等^(※)
※具体の対象科目は要検討

実施時期

11月、2～3月

11月
(一部、2月頃)

11月

日本の高校生の英語力の課題①(高校3年生の英語力の傾向(平成29年度))

- 一昨年度同様、4技能のバランスに課題がある。
 - ・ CEFR (ヨーロッパ言語共通参照枠) **A2レベル以上**の割合が「聞くこと (33.6%)」「読むこと (33.5%)」「話すこと (12.9%)」「書くこと (19.7%)」となった。
 - ・ 一昨年度に比べて「聞くこと」は増加し、「話すこと」「書くこと」は横ばい。一方、目標の50%には、4技能すべて達していない。
- 特に、「話すこと」「書くこと」は全体的に低く、無得点者の割合もそれぞれ18.8%と15.1%と一定数いる状況で、一昨年度と同様の傾向となっている。

<聞くこと>

A2レベル以上

33.6% (H27 28.7%)

聞くこと		平成27年度		平成29年度	
CEFR	得点	人数	割合	人数	割合
B2	320	1,125	0.2%	2,211	0.3%
B1	310	504	2.3%	498	3.1%
	300	558		932	
	290	694		1,100	
A2	280	821	26.2%	1,296	30.2%
	270	1,617		1,899	
	260	1,541		2,503	
	250	2,137		3,120	
	240	3,151		4,329	
	230	3,806		5,148	
	220	5,617		6,946	
	210	6,889		9,097	
	200	9,603		11,356	
	190	12,645		15,112	
A1	180	16,250	71.4%	20,461	66.4%
	170	20,540		24,116	
	160	25,671		30,971	
	150	33,149		39,240	
	140	41,655		45,075	
	130	53,192		52,551	
	120	65,582		59,185	
	110	76,456		65,779	
	100	75,343		66,334	
	90	68,494		66,395	
0	80	53,007		54,737	
	70	32,936		37,541	
	60	19,791		21,200	
	50	9,820		9,786	
	40	4,845		4,293	
	30	2,448		1,726	
	20	1,127		825	
	10	1,101		963	
	0	4,107		3,091	
	平均	123.1		127.3	
調査対象		656,223		669,737	

<読むこと>

A2レベル以上

33.5% (H27 34.7%)

読むこと		平成27年度		平成29年度	
CEFR	得点	人数	割合	人数	割合
B2	320	261	0.1%	1,232	0.4%
B1	310	131	2.2%	677	3.7%
	300	314		932	
	290	364		942	
A2	280	472	32.4%	1,522	29.4%
	270	677		2,057	
	260	1,126		2,092	
	250	1,615		3,105	
	240	2,328		3,572	
	230	3,227		4,949	
	220	4,660		6,513	
	210	6,786		8,390	
	200	9,241		10,448	
	190	12,588		13,637	
A1	180	18,051	65.3%	17,714	66.5%
	170	23,782		23,422	
	160	33,528		30,308	
	150	45,807		40,999	
	140	56,866		51,635	
	130	84,998		67,892	
	120	105,191		86,098	
	110	101,560		99,527	
	100	73,225		90,622	
	90	36,947		58,005	
0	80	15,335		26,861	
	70	5,208		9,924	
	60	1,787		2,845	
	50	749		1,191	
	40	269		491	
	30	278		299	
	20	9		66	
	10	0		52	
	0	2,706		1,478	
	平均	133.9		133.3	
調査対象		656,223		669,737	

<話すこと>

A2レベル以上

12.9% (H27 12.8%)

話すこと		平成27年度		平成29年度	
CEFR	得点	人数	割合	人数	割合
B2	14	1,833	1.3%	1,337	1.2%
A2	13	2,015	11.3%	2,730	11.7%
	12	3,242		0	
	11	3,516		4,583	
A1	10	5,149	87.1%	6,446	87.2%
	9	6,202		7,532	
	8	7,429		8,374	
	7	8,316		8,933	
	6	9,266		0	
	5	11,902		9,772	
	4	7,602		10,289	
	3	11,619		9,004	
	2	0		9,559	
	1	26,324		17,086	
0	0	18,267	14.9%	22,209	18.8%
	平均	4.7		5.7	
調査対象		122,703		117,873	
0点のみ		18,267		22,209	

<書くこと>

A2レベル以上

19.7% (H27 19.5%)

書くこと		平成27年度		平成29年度	
CEFR	得点	人数	割合	人数	割合
B2	140	0	0.0%	0	0.0%
B1	135	8	0.7%	0	0.4%
	130	0		0	
	125	18		13	
A2	120	165	18.8%	26	19.3%
	115	412		171	
	110	1,621		302	
	105	2,684		1,949	
	100	6,225		3,821	
	95	6,684		6,724	
	90	12,613		5,721	
	85	14,530		26,505	
	80	19,370		21,656	
	75	32,069		33,002	
A1	70	32,421	80.4%	31,675	80.4%
	65	40,917		35,060	
	60	33,345		26,496	
	55	36,873		44,698	
	50	32,330		28,693	
	45	21,515		26,414	
	40	28,122		34,692	
	35	19,150		31,299	
	30	22,625		25,703	
	25	24,120		32,500	
0	20	29,161		36,405	
	15	36,840		21,592	
	10	98,404		95,329	
	5	0		0	
	0	105,925		101,342	
	平均	39.9		40.1	
調査対象		658,145		672,089	
0点のみ		105,925	16.1%	101,342	15.1%

【質問紙調査とのクロス集計より】

現行の学習指導要領で示されている、「聞いたり読んだりしたことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたり」するなどの**統合的な言語活動**を行っている学校の方が、生徒の「話すこと」「書くこと」の得点が高いだけでなく、「聞くこと」「読むこと」の得点も高い。

日本の高校生の英語の課題②

現行の高等学校学習指導要領は、4技能を総合的に育成することを改善の基本方針として策定された。
次期高等学校学習指導要領は、CEFRを踏まえて改訂。

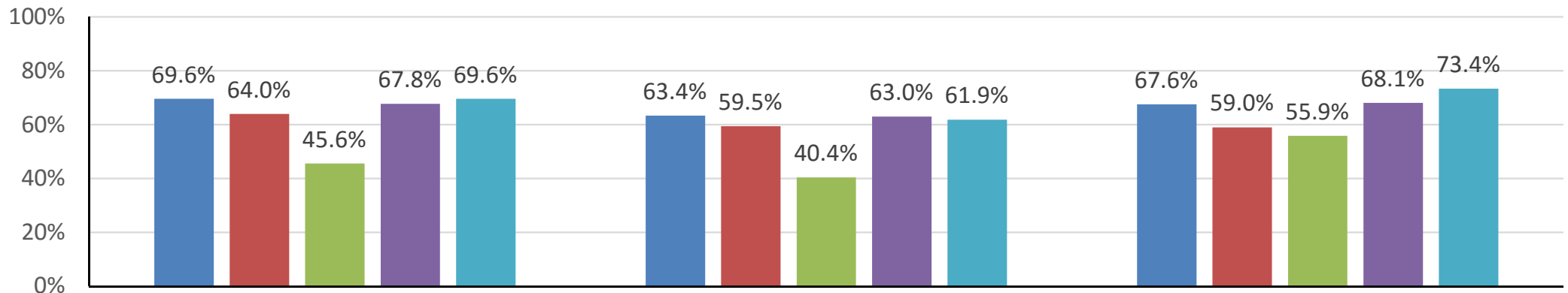
高等学校学習指導要領解説（平成21年12月 文部科学省）

ア 改善の基本方針

- 外国語科については、その課題を踏まえ、「聞くこと」や「読むこと」を通じて得た知識等について、自らの体験や考えなどと結び付けながら活用し、「話すこと」や「書くこと」を通じて発信することが可能となるよう、**中学校・高等学校を通じて、4技能を総合的に育成する指導を充実**するよう改善を図る。
- 指導に用いられる**教材の題材や内容**については、外国語学習に対する関心や意欲を高め、外国語で発信しうる内容の充実を図る等の観点を踏まえ、**4技能を総合的に育成するための活動に資するもの**となるよう改善を図る。
- 「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」及び「書くこと」の4技能の総合的な指導を通して、これらの4技能を統合的に活用できるコミュニケーション能力を育成するとともに、その基礎となる文法をコミュニケーションを支えるものとしてとらえ、文法指導を言語活動と一体的に行うよう改善を図る。
また、コミュニケーションを内容的に充実したものとすることができるよう、指導すべき語数を充実する。
- 高等学校においては、中学校における学習の基礎の上に、聞いたことや読んだことを踏まえた上で、**コミュニケーションの中で自らの考えなどについて内容的にまとまりのある発信**ができるようにすることを目指し、「聞くこと」や「読むこと」と、「話すこと」や「書くこと」とを結び付け、**四つの領域の言語活動の統合**を図る。
- 高等学校において、中学校における学習が十分でない生徒に対応するため、身近な場面や題材に関する内容を扱い、中学校で学習した事柄の定着を図り、高等学校における学習に円滑に移行させるために必要な改善を図る。

日本の高校生の英語の課題③

パフォーマンステスト(スピーキングテスト及びライティングテスト等)の学科別・科目別の実施割合



普通科

専門教育を主とする学科

総合学科

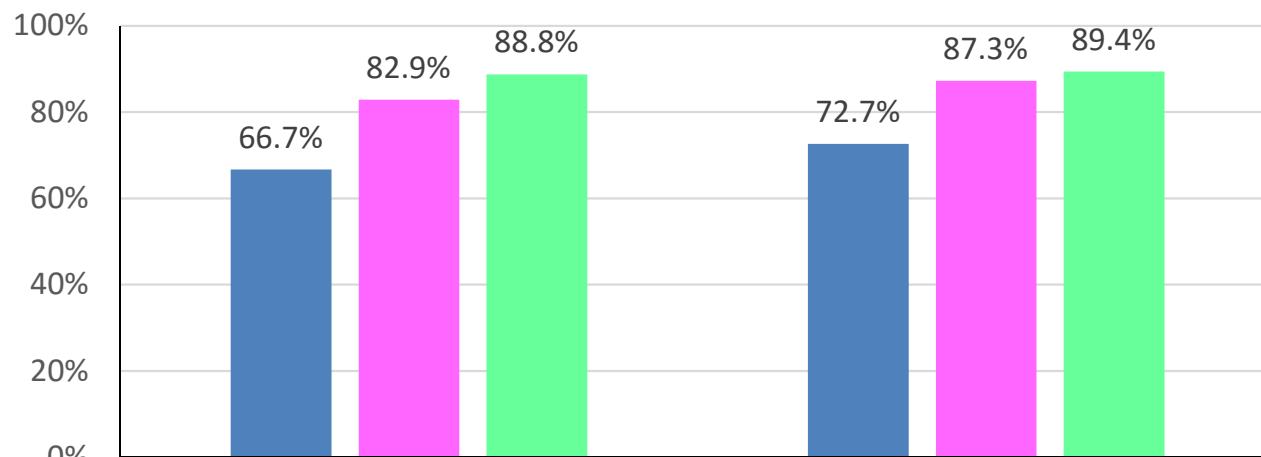
■ コミュニケーション英語 I

■ コミュニケーション英語 II

■ コミュニケーション英語 III

■ 英語表現 I

■ 英語表現 II



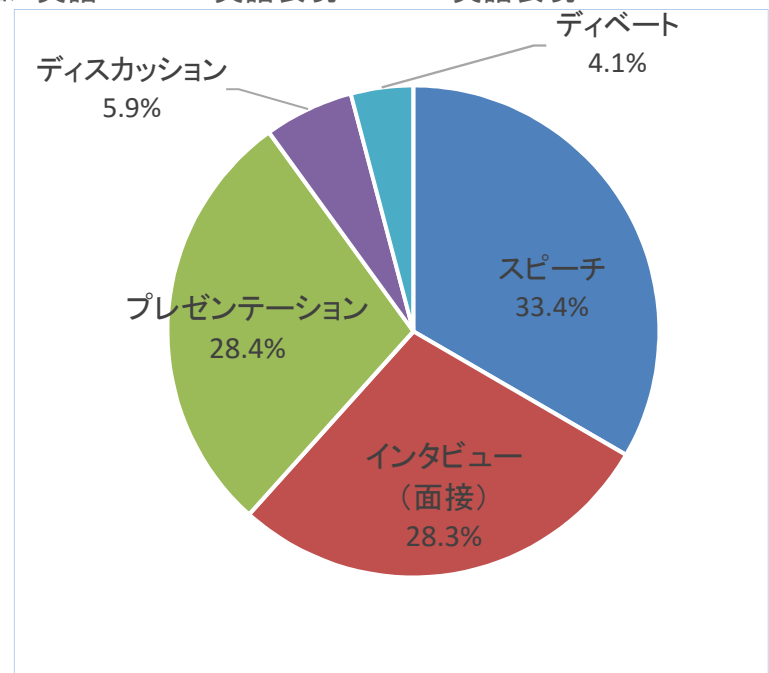
英語教育を主とする学科

国際関係に関する学科

■ コミュニケーション英語 I

■ 総合英語

■ 異文化理解



(参考)実施されているスピーキングテストの内訳
(全学科の合計)

外国語教育の抜本的強化のイメージ

CEFR

B2

(英検準1級等)

B1

(英検2級等)

A2

(英検準2級等)

A1

(英検3級等)

現状

- ・学年が上がるにつれて意欲に課題
- ・学校種間の接続が不十分

改善・充実

高校卒業レベル
現: 3,000語程度
新: 4,000
～ 5,000語程度

高等学校で
現: 1,800語程度
新: 1,800
～ 2,500語程度

中学校で
現: 1,200語程度
新: 1,600
～ 1,800語程度

小学校で
新: 600
～ 700語程度

高等学校

英検準2級程度以上の生徒
39.3%(目標50%)

- ・学習意欲、発信力に課題
- ・言語活動が十分でない

中学校

年間140単位時間
(週4コマ程度)

英検3級程度以上の生徒
40.7%(目標50%)

- ・学習意欲、積極性の向上
- ・言語活動が十分でない

小学校

年間35単位時間
(週1コマ程度)

活動型

- ・読み書きに対する意欲
- ・音声から文字への接続に課題がある

新たな外国語教育

「何が出来るようになるか」という観点から、国際基準(CEFR※)を参考に、
小・中・高等学校を通じた5つの領域(「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「やり取り・発表」「書くこと」)別の目標を設定

- ・**5領域を総合的に扱う科目群**として「英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ・Ⅲ」を、**発信力を高める科目群**として「論理・表現Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を設定
- ・授業は外国語で行うことを基本(前回改訂より)

年間140単位時間(週4コマ程度)

- ・互いの考えや気持ちなどを外国語で伝え合う**対話的な活動を重視**
- ・具体的な課題を設定するなどして、学習した語彙、表現などを**実際に活用する言語活動を充実**
- ・**授業は外国語**で行うことを基本

5・6年(教科型) 年間70単位時間(週2コマ程度)

- ・段階的に「読むこと」「書くこと」を加える
- ・指導の系統性を確保
(15分程度の短時間学習の活用等を含めた弾力的な時間割編成も可能)

3・4年(活動型) 年間35単位時間(週1コマ程度)

- ・「聞くこと」「話すこと(やり取り・発表)」を中心
- ・外国語に慣れ親しませ、学習への動機付けを高める

【2020年度～】
大学入試改革

【2019年度～】
改善のためのPDCAサイクル
高校生のための
学びの基礎診断

【2019年度～】
改善のためのPDCAサイクル
全国学力・
学習状況調査

※「聞くこと」「読むこと」「書くこと」「話すこと」に関する調査を実施

※CEFR：欧州評議会（Council of Europe）が示す、外国語の学習や教授等のためのヨーロッパ共通参照枠を言う。英検との対照は日本英語検定協会が公表するデータによる。